



山々の青葉の色がいつそうあざやかに、いつそう深くなってきました。田植えをしている田んぼが多くなりました。吉野町の夏がいよいよやってくるのだと、季節のうつろいを感じます。気象庁の予報では、全国的に気温が高い夏になると予想されています。今から暑さ対策をしておく必要があるようです。

中学校修学旅行 (5月20日～5月22日)

出発日の明け方と到着日の夜遅くに送迎してくださり、本当にありがとうございました。

3年生は、沖縄の方々とのあたたかいふれあいを体験しました。伊江島で民泊させていただいたこと。バスガイドさん、運転手さんとの楽しいひととき。空港業務をされている方やホテルの方、お土産物屋さんの方とのやりとりなど、思い返せば数々の場面がよみがえってきます。シーサーの絵付け体験の従業員さんは、雨天時のお土産購入の約束について説明する本校職員の話や、生徒たちは真剣に聞いている様子がすばらしかったです。こんな生徒たちと初めて出会いました。と褒めてくださいました。

天候による多少の制限があった修学旅行になりましたが、制限をちゃんと理解して納得し、その中で精一杯楽しもうとする生徒の姿に感動しました。

小学校修学旅行 (6月9日～6月10日)

出発は吉野神宮駅へ、到着は学校へと場所が違いましたが送迎してくださりありがとうございました。

修学旅行の全行程を通して、公共交通機関、公共の施設での態度はその場にふさわしいものでした。周りの方々に迷惑をかけない程度に、お弁当タイムやカードゲーム、会話を楽しんでいました。

雨が降るなかで、ガイドさんが平和公園の記念碑などを熱心に説明してくださる内容を聞き逃さないぞと耳を傾けました。続いて、資料館や平和公園内で原爆を物語る本物の展示物、記念碑と出会い、平和への気運を子どもたちは高めたようです。平和セレモニーも立派にやりとげました。

日本三景の一つである宮島で、厳島神社の社殿にある数字の8にまつわる秘密を教えてくださいました。商店街では、両手で持てないくらいの買い物をしました。みんなの笑顔が印象的でした。

一瞬の光を拾ってみました ～心を合わせてやってみよう～

土曜日の午前。換気のため開け放たれた校長室の窓の外から、ガラガラと音が聞こえてきます。これはグラセン(グラウンド整備)の音に違いないと決めつけて窓の外を見ると、案の定、運動場のでこぼこを無くすためのグラセンしている音でした。

よく見ると、みんな一生懸命クラブをするための準備をしているのです。道具出し。道具設置。ライン引き。草引き。周辺の掃き掃除。日よけテント設営・グラセン…。準備を一生懸命がんばる姿、自分で仕事を見つけて動く姿。カッコよかったです。

何か事をするためには、準備は欠かせません。準備はあまり光の当たらない作業ですが、一生懸命それに携わる姿は本当にカッコいいです。吉野中には、そんなカッコいい生徒がいっぱいます。

今回は運動場しか見ませんでした。体育館、校舎内、プール、カヌー艇庫でも、同じ光景が繰り広げられています。

小学校も中学校も、挨拶を通じて学校を盛り上げようとしています。私も何かお手伝いできないものかと考えたのが、「朝のバス手ふり挨拶プロジェクト」です。朝の校門でバス誘導する私と、音声でなく手ふりで挨拶をするプロジェクトです。

帰りのバスは、車窓からみんな手を振ってくれます。でも朝はそうではなかった。朝も帰りと同じように手ふり挨拶で盛り上げ、その後、バス降車時の挨拶、靴箱での挨拶、なかまとの挨拶が盛り上がるように手ふり挨拶からつなげていきたいのです。

プロジェクトは、徐々に軌道に乗ってきました。うれしいです。小学生だけでなく中学生にも広がりが見られるのは感慨深いです。大いに手を振ってくれるバスは、「フィーバー」と名付けています。

約束がひとつ。席は絶対に立たないでください。座ったままで手を挙げて手ふりしてください。

フィーバー。フィーバー。これからも。

6月4日、中国の上海にある華東師範大学第二附属中学国際部(紫竹校区)の学生16名が来校してくれました。最初はよそよそしかったのですが、給食、昼休み、掃除の時間を共有することを通して打ち解けていきました。中国と日本の中学生が交流する手段は、英語です。思い切って学んだ英語を使って話しかけ、会話が繋がっていく様子があちらこちらで見られるようになりました。黒板に絵を描いて賑やかに交流しているグループもありました。5時間目の歓迎会では、古来より中国に伝わる武術を披露してくれました。動きのダイナミックさとともに、舞い手が扇子を開くときの音も迫力がありました。

中国の学生たちは、給食の給仕。全員一斉の「いただきます」「ごちそうさま」。掃除するといった私たちの、当たり前前の習慣が大変珍しく映ったそうです。これらの習慣は、すべて思いやりのこもった大切な私たちの習慣です。私たちの思いやりの心。伝わったかな。

中国のみなさんは、本校での時間を大変喜び、感謝しておられました。協力してくれたみなさん。ありがとうございました。再見(zaijian)。